

(2) 【ゲストティーチャーの活用】 第2学年「消防団」(光村図書 きみがいちばんひかるとき)
主題名 社会の一員として地域や社会に関わっていくには(C-12 社会参画 公共の精神)

本教材は、生徒に社会の一員として地域に貢献することについて考えを深めさせる教材である。展開の後半で、町内に在住し地域貢献活動に尽力している方にゲストティーチャーとして話をいただいた。生徒は、社会参画を身近なものとして捉え、関心を高めることができた。



〈先生方の声〉

- 身近な場所で活躍する人の存在を知ること、授業の内容も自分の事として考えることができた。
- 自分も地域に貢献することができる、ということを生徒に感じさせることができた。
- 生徒がゲストティーチャーの話に釘付けになっていた。

〈生徒の声〉

- 地域や社会のためにできることをやれるようになりたいと思った。
- 他者を思う気持ちが大切だと思った。自分がしてもらった恩を返せる人になりたい。
- やってみたいという素直な気持ちから、少しでも挑戦してみたいと思う。
- とりあえずやってみようという気持ちが、大きな力へと変わっていくのかもしれない。

(3) 【ゲストティーチャーの活用】 第3学年「『リクエスト食』を支える」(光村図書 きみがいちばんひかるとき)
主題名 働くことの意義(C-13 勤労)

本教材は、働くことの意味を考え、社会貢献や自身のやりがいといった面に気づかせる教材である。展開の後半で学校支援コーディネーターの話を視聴する活動を取り入れた。身近な方の「働く」ことについての考え方に触れることで、より自分事として「働く」ことの意味を考え、他者や社会に貢献しながら自らの生き方を充実させようとする実践意欲を育てることができた。



〈先生方の声〉

- 学校ボランティアとして関わって下さっている方の活動や思いを知る機会となった。
- 身近な人々の生き方や考え方をすることで、教材の内容の説得力が増した。

〈生徒の声〉

- 収入も大切だけれど、相手の笑顔や喜びを感じ、やりがいを感じていくことが、働き続けるために大切だと思った。
- やりがいや関わる人との関係など、仕事への向き合い方は収入面以外にもたくさんあることが分かった。自分もっと広い視野で仕事について考えようと思う。
- 役に立ちたい、認められたいという気持ちが働くことの支えになるのかもしれないと思った。